



みなさんは、日々の暮らしの中にご近所付き合いはありますか？
また、気の合う仲間がいますか？

5年後、10年後に向けて「住みやすい、住んでいてよかった。」と思える、「人と人とのつながりのある地域」をめざし、それを「地域のお宝」として、ご紹介していきます。

取材先

綿打地区 篠田正子さん 77歳



「周りの人に支えられて生きているの」

穏やかに話してくれた篠田正子さんは長年、ご家族と地元で暮らし幼稚園の先生をしていましたが、現在は1人暮らしをしています。

絵を描いたり、コーラス、ご詠歌、俳句と多趣味で外に出る機会が多かった正子さんですが、コロナをきっかけに趣味の集まりが無くなってしまいました。

それでも、**ただ家にこもるのではなく「家でも出来る事をやろう」と前向きな気持ち**で絵を描いて過ごしています。

コロナも落ち着いてきた事から、これから趣味の集まりも少しずつ動き出すから楽しみが増えると教えてくれました。

写真は所属する「睦デッサンサークル（講師 坂井満さん 会員11人）」の作品展での正子さんです。様々な技法を凝らした水彩画6点が展示されていました。

また、主治医から「おしゃべりしないとダメだよ」と言われた事もあり、親戚や友人とスマートフォンを使って**おしゃべりをする事がとても楽しみ**だそうです。

「免許を返納して不便になってしまった」と話してくれましたが、**友人に買い物を手伝ってもらったり趣味の仲間に支えられながらお元気に**過ごされていました。



地域のお宝発見 ～太田市生活支援体制整備事業～

取材先

***** 綿打地区 安成寺「ご詠歌」



取材のきっかけ

「篠田正子さん」を取材している中で、月に2回ご詠歌を習っていると話を伺いました。

生き生きとお元気に過ごされている正子さんの更なる「つながり」を掘り下げたいと思い、ご詠歌の取材に伺いました。



ご詠歌は、花香塚町の安成寺（真言宗 豊山流）にて月2回（隔週水曜日）行われています。ご詠歌には2つの形があり、三十一文字（みそひともじ 五、七、五、七、七、）の和歌で作られた「詠歌」と、七五調の歌詞にメロディを付けた「和讃」、一般的にこの二つを称して「ご詠歌」と呼んでいます。

その内容は仏様を讃えるもの、仏様の教えや寺院行事をやさしく説いたもの、あるいは亡き人の菩薩を願うものなどがあります。

ご詠歌は、鈴（れい）と鉦（しょう）と鐘木（しゅもく）を使って経本を見ながら歌います。

会員は花香塚町周辺の女性を中心に15人で、この日は11人が参加していました。

平均年齢は70歳後半で、安成寺住職の奥さん山崎敏子さん（73歳）が先生となり「宗祖弘法大師誕生和讃」「花まつり和讃」を皆さんに教えていました。

この会は、昭和63年から始まり、親の世代から経本や道具などを受け継いで使用している方もいらっしゃいます。また、参加者同士ご近所ということもあり、ご詠歌以外にもコロナ前は食事会や忘年会、新年会などで集まって交流を深めていました。

にいじま しのぶ
新島 忍さん 77歳

平成19年から参加。上田中町のグラウンドゴルフ、行政センターで行われている吹き矢、上田中長寿会（老人会）での体操と踊りにも参加している。



チェックポイント

ご詠歌は伴奏がなく、1年かけてじっくりとやる曲もあるため、目標が明確です。左右の手で違う動きをし（鈴、鐘木を持つ）声を出しながら経本を目で追います。一度に多くの動きをするので、頭を使い、脳トレや健康増進になっています。



篠田正子さんの取材で知ったご詠歌。安成寺に取材に伺うと、たくさんの元気な会員の皆さんと、たくさんの「つながり」「気遣い」がありました。集合写真を撮る際には、足が丈夫でない人の移動

をみんなで気遣い、椅子が必要な人に気付いた人がそっと椅子を運んであげたり、受けた人は「ありがとう。みんなのおかげで参加できる」と声を掛け、温かさが溢れた場所でした。ご詠歌が終わると正子さんはリハビリの為に歩いて帰るとの事。すると参加者の市橋歌子さんが「一緒に帰ろうね」と正子さんに寄り添い二人で歩いて帰る姿がみられました。



詳しくはこちら

お問い合わせ

太田市社会福祉協議会 地域福祉係
〒373-0817 群馬県太田市飯塚町1549
TEL 0276-46-6208 FAX 0276-46-6229